

2024年5月19日(日)

日本キリスト教団 **久宝教会**  
第67巻第8号(通算3390号)  
教会設立 1959年6月14日

〒581-0072

大阪府八尾市久宝寺6丁目7-10

TEL 072-992-2131 FAX 072-992-2135

郵便振替: 00980-5-212130 「日本基督教団久宝教会」

【集会案内】こどもの礼拝: 毎日曜 10:00-10:20 何かお悩みがありましたらご遠慮なくご相談ください  
主日礼拝: 毎日曜 10:30-11:30 小さい子どもたちも、いつでも歓迎いたします。

しゅうほう  
**週報**

教会標語

小さくされている人を  
大切にする教会



ホームページ「久宝教会」  
(ウェブサイト)

<http://www.koinonia.or.jp/kyuhokyokai>

【連絡先(牛田)】090-9161-4027

[kyuho-church@koinonia.or.jp](mailto:kyuho-church@koinonia.or.jp)

この「確かさ」は当て外れということがありません。私たちが頂いている聖霊の働きによって、人を大切にする神の思いが、すでに私たちの心に注がれているからです。(ローマの人々への手紙5:5)

ペンテコステ礼拝  
**聖霊降臨日礼拝**

《礼拝はインターネットで中継配信いたします。ホームページにてどなたでもご視聴いただけますので、それぞれの場所で共に礼拝をして頂きます》

前奏(黙祷) AVE VERUM CORPUS (©著作権消滅)

招きの詞 ヨハネによる福音書 14章 17節

賛美歌『アイオナ共同体賛美歌集』「世の初め、鳥のように」(©JASRAC)

お祈り(交唱)(2頁をご参照ください) みんな

賛美歌 21-290番「おどり出る姿で」(©JASRAC) と朗読

聖書 使徒言行録 2章 1-13節

メッセージ 「立場から解き放たれて」 牛田 匡 牧師

賛美歌 21-346番「来たれ聖霊よ」(©JASRAC)

聖餐 牛田 匡 牧師

共同のお祈りと、平和のあいさつ

賛美歌 21-524番「われらみ名により」(©著作権消滅)

主の祈り

献げ物(\*)

派遣 21-91番「神の恵みゆたかに受け」(1節のみ)(©JASRAC)

祝福 牛田 匡 牧師

後奏 アーメン コーラス (21-40-6番)(©教団讚美歌委員会)

報告 (4頁をご参照ください)

《席にお座りになったままで礼拝にご参加ください》

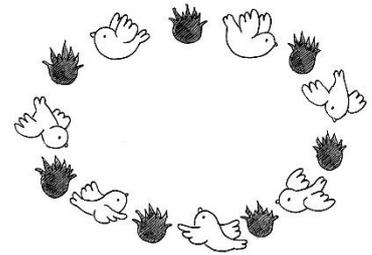
\*受付に献金箱がございます。

「献げ物(献金)」はご用意のある方のみ、お献げください。

招きの詞 <sup>まね</sup> <sup>ことば</sup> ヨハネによる福音書 14 章 17 節 a,c,d(聖書協会共同訳©日本聖書協会)  
 この方は、真理の霊である。あなたがたは、この霊を知っている。この霊があなたがたのもとに<sup>a</sup>おり、これからも、あなたがたの内にいるからである。  
 (脚注 a: 直訳「とどまり」)

ペンテコステのリタニー (交唱)

司式者	神さま、ペンテコステの日のように、	
みんな	聖霊を風のように送り、教会を力づけてください。	
司式者	神さま、初めの教会が誕生した日のように、	
みんな	聖霊を炎のように送り、わたしたちを力づけてください。	
司式者	戦争を続け、憎しみ合うこの世界に、	
みんな	聖霊を助け主として送ってください。	
司式者	どう祈ればよいのか分からないとき、	
みんな	聖霊を助け主として送ってください。	
司式者	聖霊が働くと、何か動き、変わっていきます。	
みんな	聖霊が働くと、ちがっていることのすばらしさが輝きます。	
一緒に	神さまのくださる聖霊を感謝します。	



(出典：高寺幸子編『祈りのコンチェルト』2006年, 46-47頁)

『讚美歌 21』 290 番「おどり出る姿で」と朗読

290 番 1 節「おどり出る姿で」

私たちは自由になりたいと願っています。でも自由を得ることがどれだけ難しいかということを知っています。「私に従って来なさい」、主イエスはこのように弟子たちを招かれました。主イエスの招きの言葉は、弟子たちに自由と解放の喜びを与えたのです。主に従うことは決して束縛された窮屈な道を歩むことではありません。全てのものから解放された、本当の自由への道なのです。

290 番 2 節「網を繕う」

「疲れた者、重荷を負う者は、誰でも私のもとに来なさい。休ませてあげよう」。主イエスはこのように語られました。重荷は誰にも代わってもらえませんが、自分自身で背負っていかねばなりません。けれども主イエスはこう言ってくださるのです、「私のもとに来なさい。あなたを休ませてあげるから」。人生の重荷に耐えかねている人々は、こうして慰められたのです。

### 290 番 3 節「きよい安息日に」

「なぜ、あの方が十字架にかからなければならないのか?」「神はなぜ、彼を助けてくださらないのか」「神は一体何をされているのだ!」怒りと嘆きと絶望の叫びがゴルゴタの丘に響きわたっています。神の子が苦しみを受けなければならない、それは何のため? それは……私たちのためだったのです。

### 290 番 4 節「暗い雲が光をとぎし」

「イエス・キリストは絶望の中を死んでいかれた」、そこでこの物語が終わったわけではありません。一度死んだ神の子は、三日目の朝に引き起こされたのです。「え? まさかそんなことがあるはずがない」、私たちはそう考えてしまいます。けれども、聖書は「主は本当に死から引き起こされた」と伝えています。この、不思議な出来事の中に、神は最も大切なメッセージを託されたのです。神の子は死の力を打ち破ったのです。そして神はこう言われるのです。「あなたたちはもう、死を恐れなくていい」。

### 290 番 5 節「重い墓石をもけやぶり」

復活されたイエス・キリストは、天の父のもとに移られました。弟子たちは取り残されてしまったと思い、不安になりました。心細くなっている弟子たちには、ただ主イエスの言葉だけが残されています。それは「約束のものを待ちなさい」という言葉です。約束された聖霊を待つことだけが、彼らの出来る唯一のことだったのです。

(参照:「ペンテコステの礼拝 聖霊の賜物を受けて」『礼拝と音楽』臨時増刊 2001 年, 70-72 頁)

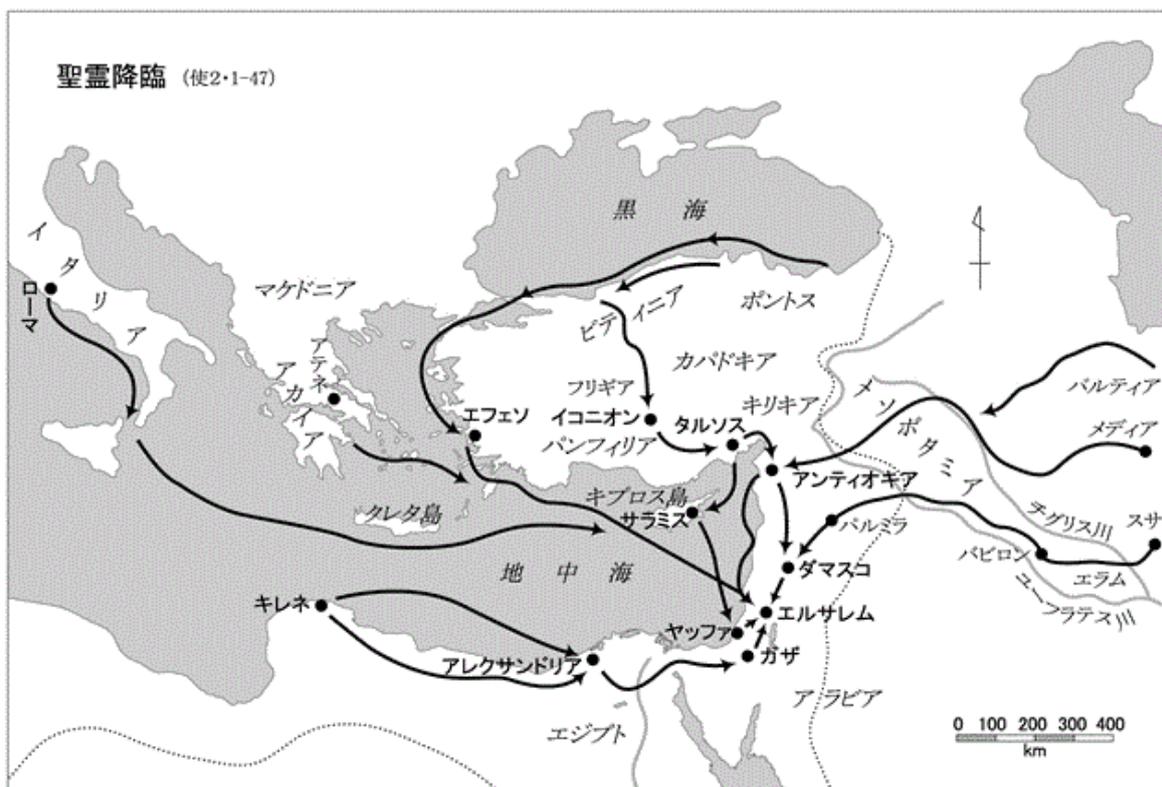


聖書 使徒言行録 2章1-13節 (聖書協会共同訳©日本聖書協会)

<sup>1</sup>五旬祭の日が来て、皆が同じ場所に集まっていると、<sup>2</sup>突然、激しい風が吹いて来るような音が天から起こり、彼らが座っていた家中に響いた。<sup>3</sup>そして、炎のような舌が分かれ分かれに現れ、一人一人の上にとどまった。<sup>4</sup>すると、一同は聖霊に満たされ、霊が語らせるままに、他国の言葉で話しだした。

<sup>5</sup>さて、エルサレムには天下のあらゆる国出身の信仰のあついで、<sup>b</sup>人々が住んでいたが、<sup>6</sup>この物音に大勢の人が集まって来た。そして、誰もが、自分の故郷の言葉が話されているのを聞いて、あっけにとられた。<sup>7</sup>人々は驚き怪しんで言った。「見ろ、話をしているこの人たちは、皆ガリラヤの人ではないか。<sup>8</sup>どうして、それぞれが生まれ故郷の言葉を聞くのだろうか。<sup>9</sup>私たちの中には、パルティア、メディア、エラムからの者があり、また、メソポタミア、ユダヤ、カパドキア、ポントス、アジア、<sup>10</sup>フリギア、パンフィリア、エジプト、リビアのキレネ側の地方に住む者もいる。また、滞在中のローマ人、<sup>11</sup>ユダヤ人や改宗者、クレタ人やアラビア人もいるのに、彼らが私たちの言葉で神の偉大な業を語っているのを聞こうとは。」<sup>12</sup>人々は皆驚き、戸惑い、「一体、これはどういうことなのか」と互いに言った。<sup>13</sup>しかし、「あの人たちは新しいぶどう酒に酔っているのだ」と言って、<sup>あざけ</sup>嘲る者もいた。

(脚注 b：異本による。ギリシャ語底本では「ユダヤ人」)



(出典：フランシスコ会聖書研究所訳注『聖書』)

## 《先週のメッセージより》5月12日 家族の日礼拝

「独り立ちの準備」より

水谷憲牧師

聖書 列王記 下 2章1-15節

旧約聖書の預言者エリヤとその後継者エリシャの別れの日。各地の預言者仲間へ最後の挨拶に回るエリヤにエリシャは「私はあなたを離れません」と繰り返す。最後にエリヤが「私があるあなたの元から取り去られる前に、あなたのために何をしようか」と尋ねると、エリシャは「あなたの霊の二倍の分け前を私に受け継がせてください」と願う。別れが避けられないものであるなら、せめてエリヤの長子としてのしるしをいただかなければ、という強い思いがあったのかもしれない。「むずかしいこと言うなあ」とぼやいたエリヤが「私があるあなたのもとから取り去られるのをあなたが見れば、願いはかなえられる。もし見なければ、願いはかなえられない」と話していると、火の戦車が火の馬に引かれて現れ、エリヤは嵐の中を天に上って行った。別れというものは私たちの想像を超えて、あまりに突然に訪れる。エリシャは今回、突然だったとはいえ、エリヤとの別れに何とか立ち会うことができたが、大事な人との別れに立ち会うことができなかつた人はどうなるのか。せめて愛する人との絆をいつでも再確認できるようなしるしがほしいという願いはかなわないまま、その後も続く人生を送っていかねばならないのか。

先日、「すずめの戸締り」という映画を見た。幼い頃に東日本大震災で母を亡くした主人公の女性。母の死に目にも会えず、ご遺体も出てこなかったため母との別れをきちんと経験することができなかつた。そんな彼女がいろんな人との出会いや不思議な出来事によって自分の心の傷を少しずつ癒して乗り越えてゆくという成長物語であったように思う。愛する者ときちんとお別れができなかつたから、その後の人生は後悔ばかりの暗い人生になってしまうかという、そんなことは決してない。時間はかかるかもしれないが、その痛みは時間と共にきっと癒されていくし、愛する人との絆をいつでも感じていたいという願いもきっと叶う。きっといつか私たちは、愛する人との絆をいつも感じながら、独りで立って歩いてゆける時が必ず来ることを信じたい。

先週の昇天日から、弟子たちに聖霊が降されるまでの空白の期間、それは言わば「独り立ちの準備」の期間と言えるかもしれない。きっと私の上にもキリストは約束の聖霊を降ろし、そのような形でキリストはいつも共にいてくださるのだと、希望をもって歩んでいきたい。

毎週の「メッセージより」は、ウェブサイト等にも順次掲載されています。

ホームページ



Facebook



YouTube



◎ 先週の報告 5月12日 復活節第7主日礼拝

礼拝出席 大人6名 献金 大人5,000円 中継視聴者数11回 感謝  
さんと さんが初めて来会されました。

◎次週 2024年5月26日(日) 三位一体主日(聖霊降臨節第2主日)礼拝

招きの詞 イザヤ書 40章 28-31節

聖書 詩編 37編 23-40節

メッセージ 「手を離さないで」水谷憲牧師

賛美歌 21-352 (©P.D.)、21-360 (©P.D.)、21-521 (©P.D.)

礼拝の中で、5月の誕生者祝福式を執り行います。



◎お知らせ

- ・本日、礼拝後に、釜ヶ崎支援のための「おにぎり作り」を行い、いこい食堂にお届けしてお配りさせて頂く予定です。どなたでもご参加ください
- ・5月25日(土) 13時半～16時に、京都にある関西セミナーハウスにて、岩波書店前社長・岡本厚さんの講演会「『戦争の時代』にしないために —沖縄対話プロジェクトの経験から」が開催されます。会場での参加の他、オンラインでの参加も可能です。参加費は一般2,000円、学生は500円です。22日(水)までにお申し込み下さい。詳細は「日本クリスチャンアカデミー関西セミナーハウス活動センター」のウェブサイトをご参照ください。 <https://www.academy-kansai.org/index.php>
- ・5月26日(日) 15時～17時に、浪花教会にて、「2024年度 関西労働者伝道委員会年度報告会」が開催されます。久宝教会でも今年の2月に「労働者伝道委員会・講壇交換礼拝」を行いました。その委員会の年間活動報告や会計報告、また新体制に移行した報告などがあります。1956年に結成された「労働者伝道後援会」から継続して、現在も摂津富田教会牧師の大谷隆夫さんが専従者として、同委員会の方々と共に活動をされています。参加費は無料で、申し込みも不要です。どなたでも参加できますので、当日に直接会場の浪花教会(地下鉄・淀屋橋駅、北浜駅より徒歩)にお越しください。

2024年度 修学院フォーラム「社会」第2回 日本クリスチャンアカデミー  
関西セミナーハウス活動センター

シリーズ「戦争と平和」

**「戦争の時代」にしないために** 会場とZoom  
—沖縄対話プロジェクトの経験から

講師 岡本 厚 (前岩波書店社長・元雑誌「世界」編集長)

2022年のウクライナ戦争に続き、2023年には中東が戦争が始まりました。国連の機能不全が続く中で、東アジアにも戦火が拡大するのではないかと不安が囁かれ、日本はかつてない軍拡と沖縄など南西諸島の軍事化を推し進めています。いま何が起きているのか、世界はこま「戦争と暴力の時代」に入っていくのか、そして非戦の道法をもつ私たちが何をすべきか、考えます。

日時 2024年5月25日(土) 13:30 ~ 16:00  
会場・参加方法 関西セミナーハウス、またはリモート参加 (Zoom)  
参加費 来館リモート共通 2,000円 学生 500円 (リモートは別途 (税込別席))

講師は、会場で講演し、話し合いに参加します。参加者は、次のいずれかの方法で参加できます。  
【遠隔参加】 関西セミナーハウスの会場に集まり、講演を聞き、話し合いに参加します。  
【リモート参加】 オンラインのZoomミーティングに参加し、自分の部屋や車中から参加することができます。申し込みに際し、メールアドレスをお知らせください。録音の前後、メールアドレスを通じてZoomの招待をお送りします。

 岡本 厚 おかもと つとむ  
1964年生まれ。1977年早稲田大学卒業。岩波書店入社。雑誌「世界」編集に携わり、1996年四輪編集長(～2012年)。朝日新聞の会大先輩、台湾の国民党などに編集プロジェクト。  
2013年岩波書店代表取締役社長(～2021年)。  
退任後、「台湾有事」を起さない・沖縄対話プロジェクト呼びかけ人、共同代表(同プロジェクトは24年2月に終了)。

※要申込※ 5月22日(金)までに Fax申請。電話、電子メール、Webサイトフォーム等でお申し込みください。

◎ 次週以降の行事予定

	メッセージ	行事
5/26	水谷憲牧師	誕生者祝福式
6/2	牛田匡牧師	ユウカリスト・教会を考える会
6/9	水谷憲牧師	(教会創立記念礼拝)花の日こどもの日
6/16	牛田匡牧師	

どなたでも出席できます！  
労伝をおぼえて、ぜひご参加ください。

2024年度  
**関西労働者伝道委員会  
年度報告会**

日時：2024年5月26日(日)  
午後3時～5時  
場所：日本キリスト教団浪花教会

第1部：「大谷さんが歩んだ32年」  
第2部：年間活動報告・会計報告・新体制報告

関西労働者伝道委員会とは・・・  
1956年1月9日、京阪神地区のキリスト者有志40名によって労働者伝道後援会が結成された。現在、1992年からの専任者：大谷隆夫さん(摂津富田教会牧師)と共に歩む会として、教師・信徒有志で活動中。1月最終週は「労伝デー」として、参加者教会の牧師の交換講演を行い、労伝の働きを覚える日としている。

関西労働者伝道委員会  
(日本キリスト教団浪花教会内)  
TEL: 06-6231-4951  
E-mail: naniwachurch@gmail.com

